14. カラム法 (Z-gel 法) による CEA 測定の検討 第2報　基礎的検討

松尾　定雄　鶴田　初男　金森　勇雄
木村　得次　市川　秀雄　樋口ちづ子
（大垣市民・特放）
中野　哲　北村　公男　綿引　元
武田　功　（同・2内）
佐々木常雄　石口　垣雄　（名大・放）

われわれは現在血清 CEA をサンドイッチ法で測定している．しかし，Z-gel 法にて測定した CEA 高値との間に逆相関性を示すことが米山，永田らによりすでに報告されているが，今回われわれは日本ロシェ社から透析操作にかわる CEA 測定用カラムの提供を受け使用する機会を得たので基礎的検討を実施し若干の知見を得たので報告した．

結語：(1) 透析操作も無く時間短縮となり，煩雑さも改善された．(2) 血清と血漿とは r=0.923 で相関が得られた．(3) 蒸留水は 1×10^6 メガオーム以上のものを使用するのが望ましい．(4) インキューベション時間は30分でほぼ満足すべき結果が得られた．(5) インキューベション温度は 45°C でほぼ満足すべき結果が得られた．(6) 希釈試験はほぼ理論値に一致した直線性が得られた．(7) 同時再現性の CV は 3.3～12.8%，日差再現性の CV は 7.2～10.3% と共に良好な結果が得られた．(8) 回収率は 82～119% の間であった．

以上検討の結果 CEA カラム使用によるロシェキットは十分ルーチンワークとして使用できるものと思われる．

15. AFP RIA キットの基礎的検討

樋口ちづ子　松尾　定雄　金森　勇雄
鶴田　初男　木村　得次　市川　秀男
（大垣市民・特放）
中野　哲　北村　公男　綿引　元
武田　功　（同・2内）
佐々木常雄　石口　恒男　（名大・放）

今回われわれは，日本トラベノール社発売の AFP RIA キットを使用する機会を得たので，その基礎的検討について報告した．

結論：(1) 標準曲線の再現性は2.5～1.8%の間にあった．(2) Incubation 時間　1st 3時間，2nd 30分にて良好な結果が得られた．(3) Incubation 温度　1st, 2nd 共に 25°C にて良好な結果が得られた．(4) 同時再現性の変動係数は4.6～8.3%の間にあり非常に良好であった．(5) 日差再現性の変動係数は 2.3～8.0% の間にあり非常に良好であった．(6) 回収試験　82.7～107.6% の間にあり良好であった．(7) 希釈試験　良好なる直線性が得られた．(8) 交叉試験　Ferritin, CEA, β_2-MG との間の交叉性は全く認められなかった．(9) 今回検討の二抗体法と PEG 法との相関は $\gamma=0.97$ と良好であった．(10) 正常域は従来通り 20 ng/m*l* 以下の設定で良いと考える．

本キットの測定は操作も簡便で，得られた AFP 値の再現性も良好であり，臨床的に十分応用し得るキットであると考えられる．

16. ドーナツサインを呈した脳スキャン例の CT との対比

分校　久志　（市立敦賀・核放）
北野　哲男　（同・脳外）
久田　欣一　（金大・核）

脳スキャンにおけるドーナツサインはある程度の大きさを有し，中心部が avascular な脳内病巣を示すものと解される．一般的に膠芽細胞腫，転移性脳腫瘍，脳内血腫，膿瘍，脳梗塞においてみられるとされている．今回，当院で脳スキャン，CT, CAG を施行した症例で脳スキャン上ドーナツサインを呈した3例について CT 所見との対比検討を行なったので報告する．

脳スキャンは ^{99m}Tc-DTPA 20 mCi にて RI アンギオ，early および delayed スキャンを行ない，CT は Δ2020 にて plain および enhance を行なった．第1例は77歳男，複視．RI アンギオ正常，delayed のみドーナツサイン (+)．CT にて中心 low density，不整な edge enhancement (+)．第2例は77歳男，右片麻痺．RI アンギオ hypervascular, early にてドーナツサインより明瞭．CT は第1例とほぼ同様の所見であった．第3例は62歳女，痙攣発作．RI アンギオ正常，delayed スキャンのみドーナツサイン (+)．CT にて high density，周囲の low density (+)，CE にて不変．第1, 2例は膠芽細胞腫と考えられたが手術していない．これらは病巣中心と周辺部の vascularity の差によるドーナツサインである．第3例は皮質下血腫で，perifocal edema の部に RI 集積があ

Presented by Medical*Online